

## MPSAの活用に係る今後の検討課題（案）

※ 平成31年度からの（仮称）発達障害者支援地域協議会において、引き続き検討する課題

**【最重点課題】** ※ 31年度から具体的な取り組みを検討

◎ MPSAの有効性、活用可能性の検討

（本市における発達障害児者支援の基本ツールとしての活用可能性について、具体的な事例をもとに検証）

○ MPSAの普及啓発・意見交換（支援者向け講演会、事例検討会など）



《MPSA活用にあたっての検討課題》

※ MPSA活用の方向性を見極めながら、段階的に検討

### 1 評価の実施方法

- 本市の発達障害児者支援における、MPSA評価及び評価結果活用のガイドライン
- MPSA評価を行う拠点となる相談支援機関（専門機関に繋がる前に早期支援を開始することを視野に入れて検討）
- 本人及び保護者との面接の場、及び面接評価の進め方
- 現・MPSA実施医療機関と相談支援機関との役割分担

### 2 対象者について

- 対象者の抽出及び評価受診勧奨の方法（知的能力が高く、発達障害の特性が見えにくい当事者に気付き、MPSA評価につなげる方法 等）

### 3 評価結果の活用

- レーダーチャートの活用方法  
（支援の場で活用するために、どのような情報を添えるとよいか）  
（支援者はレーダーチャートをどう理解すればよいか、評価結果をどのように支援に反映するか）
- 評価者から支援者への個別説明の必要性、説明方法等

### 4 評価者等の確保、育成

- MPSA評価者の確保・育成（拠点となる相談機関における評価者の確保、民間医療機関等との協働による市内の評価者育成）
- MPSA評価者のスキルアップ研修（評定に関する事例検討）

### 5 支援者を含めた啓発・人材育成

- 自閉スペクトラム症をはじめ、発達障害について学ぶ機会の充実（MPSA評価者となる人、支援者、当事者・家族のそれぞれに向けた研修等の充実）

## 6 各種アセスメントとの併用

- 知能検査・発達検査の実施方法（WISC・WAIS）
- 適応行動（生活能力）に関するアセスメントの実施方法（例・Vineland-II）
- 各アセスメント結果の統合・総合評価の方法、支援への活用について